## 地域疾患少术"步力公2018

● 日 時:4月15日(日)10時~11時30分

● 場 所:ロームシアター京都サウスホール(京都市勧業館「みやこめっせ」真向かい)

司 会:井口 清太郎(新潟大学 日本内科学会地域医療ワーキンググループ世話人) 恵美 宣彦(藤田保健衛生大学 日本内科学会 学会在り方検討委員会委員)

- 1 接拶 「超高齢社会で果たすべき日本内科学会の役割と責務」 日本内科学会 理事長 門脇 孝
- 2 地域医療のこれから(特に都市部における人口動態の視点を踏まえて) 高林 克日己(三和病院)
- 地域医療構想とは何か(制度上からの見通し) 厚生労働省医政局 地域医療計画課 医師確保等地域医療対策室長 松岡 輝昌
- かかりつけ医としての地域医療 日本医師会 常任理事 鈴木 邦彦
- 在宅医療の今、そしてこれから 全国在宅療養支援診療所連絡会 会長 新田 國夫 新田クリニック (東京)
- 日本内科学会指定発言 向原 圭(久留米大学 日本内科学会地域医療ワーキンググループ)

『地域医療構想』、『2025年問題』…これらの言葉は、待ったなしの超高齢社会とこれからの 医療を象徴するキーワードとして日増しに取り上げられてきています。もはや全ての内科医が 勤務医や開業医といった立場に関わらず、何らかの形で『地域医療』に向き合うことになると 言っても過言ではありません。

これからの超高齢社会医療、どのような医療のダイナミズムが現場で起こり、そして内科医としてどのように向き合うことになるのか、このたび開催する『地域医療シンポジウム2018』 において、皆様と共有することができればと思います。

主催:一般社団法人 日本内科学会 お問い合わせ:03-3813-9547 http://naika.or.jp/